



## 第63号

執筆者  
@ 短信

### 田中 千晶

この短信を書いている現在は修士論文提出 40 日前です。11 月末が原稿締め切りですが書けるときに書けるものを、できる時にできることをしておかないとにも終わらない気がして怖いので、現実逃避の意味もかねてマガジンの作業をしています。

私の記憶では倫理審査も割と早いタイミングで突破したし、アンケートも早めに撒いた…。インタビュー調査もわりと8月中にとったし…指導教員にも言われましたが「どこで失速したのでしょうか。」どこにも出かけずにこの夏は「我慢の夏！」としたんだけどなあ…。

ま、今更過去の事を悔やんでもなんともならないのでできるところから執筆していこうと思います。まずは謝辞から書こうかな…。

森で出会えば…

P312～

### 本林 友梨

去年のこの時期から対人援助学マガジンへの連載を始めさせていただきました。もう1年経ったなんて…！この1年、研究を進めていくことはできなかったのは悔やまれ、もう少し頑張れなかったのかと感じますが、一方で、なんだかんだよく過ごし

たなと思える感覚もあります。研究をすること、対人援助学マガジンの連載を始めたこと、それぞれ私にとっては容易いことではなく(実際時に少し後悔？することもあります)、しんどいところですが、“厳しい状況に身を置かなければ成長しない”というような考えを胸に、なんとかまた1年やっていけたら嬉しいと思います。

心理臨床における多重関係を考える

P 309～

### 土元 哲平

地球のことばかり考えて半年以上が過ぎました。そろそろ月や火星に興味が出てきたところだったのですが、『日本人宇宙飛行士』(稲泉 連, 著)という著書に出会い、また地球の美しさに惹かれるようになりました。何度見ても、見飽きません。月には、全く行きたくありませんが、宇宙から(安全に)地球を眺める日を夢見ています。



地球と宇宙の文化心理学

P315～

### 高名 祐美

スクールソーシャルワーカーのことをこのマガジンで書いている。何をするのがSSWなのか的確に答えられない。それが歯がゆく、悔しく思う。それで文字にしてみようと思い立った。やはり筆は進まない。

学校からの依頼で支援開始となるのだが、学校から指示されることだけ実践すればいいのか？最近疑問だらけになっている。

ソーシャルワークを生涯の仕事としたいと選んだこの道。毎日スケジュールノートとにらめっこしつつ、保護者との面接や学校訪問、関係機関とのやりとりをいつ行

えるか考える。そして記録に追われる。これがやりたかったことなのだろうか…。面接にはエネルギーを注げるのだが、そこで得たことからどのように展開していけばよいのか。さまざま考えてしまう今日このごろ。

スクールソーシャルワーカーの仕事

P229～

### 水野 スウ

めっちゃめっちゃ濃くて忙しい11月でした。今回はマガジン原稿お休みしますが、近況報告を。

月のはじめに、「紅茶の時間」で通算34回目になる宮沢賢治さん童話の朗読とワークショップ、月の終わりに、埼玉のフォークシンガー・たかはしべんさんコンサート、と2回のとくべつ紅茶があり(会場はどちらも石川県津幡町のわが家、ステージのバックは紅葉の雑木林)、その合間に、川越紅茶と京都紅茶と津幡紅茶の4人で姉妹紅茶旅 in 石川、東京の娘夫婦が久しぶりに里帰り。そのまた合間に夫婦で夕陽の追っかけ、紅葉の追っかけ。

11月はそれに加えて、12月1日から始まる「つながる世界」展の準備打ち合わせもところどころに。「つながる世界」展は、日本の25人の絵本作家さんたちが、一昨年10月からのパレスチナの現状に声をあげずにいらなくなり、自分たちも表現しなくては、とガザの子どもたちを想って描いたオリジナル原画の絵画展のこと。

合わせてJVC(日本国際ボランティアセンター)が撮影したパレスチナの子どもたちの写真の展示も。金沢では市の後援を得たおかげで、金沢市役所の庁舎がその会場に。「つながる世界」展を呼びかけた絵本作家のお一人、チェコスロバキア在住の降矢ななさんも来日されて、金沢展会期中にギャラリートーク、そして絵本の読み聞かせと講演をさせていただきます。

この絵画展と写真展は今年6月から巡回展が始まり、これまでに東京や広島、京都などで開かれ、金沢の次は沖縄で。マガジン更新時にはもう金沢展は終わっていますが、お住まいの近くでこの「つながる世界」展+写真展がありましたら、どうぞ足を運んでみてくださいね。

そんなこんなの11月に、週一誰でもどう

ぞの場「紅茶の時間は」43年目に入りました。今でもぼつぼつと来るひとがいます。ここんとは、こもり気味の男性と、胸ん中モヤモヤがいつぱいの主婦さんがよく。二人の来る時間が度々重なって一緒に時間を過ごすうち、全然違う人生送ってきたのに意外と共通点あるもんだなあ、と二人とも気づいていくところがおもしろいです。悩みの質は違うけど、自分のきもちを感じてそれを言葉にするのがどちらも苦手、言葉にする機会が少なかった二人、という点でおおいに似てる。紅茶は、その気になればいつでもコミュニケーションの練習ができる場所だよ、と言ったら二人ともそう認識してくれたみたいで、聴く練習、気持ちに気づく練習、それを言葉にする練習、「ありがとう」を言う時も、それはどんなありがとうで、何を伝えたいありがとうなのか、などなど、言葉にしてもらって、時には数秒で終わるロールプレイを試みたりもしています。

巷ではインフルエンザが猛威をふるっているよう。執筆者の皆さまもどうかお身体気をつけて。そしてちょっと早いけど、良いお年を。ではまた。

### きもちは言葉をさがしている 休載

## 馬渡 徳子

2025年3月から9月まで、団士郎さんの家族漫画展とトークショーを県内で実施した。

開催地域と場所は、①3月輪島市:ふれあい健康福祉センター(支援者支援のワークショップ)→②5月七尾市:パトリア(漫画展)・のと里山里海ミュージアム(トークショー)→③6月金沢市:無料塾寺子屋えがお・子ども食堂(漫画展)→④7月津幡町:文化会館シグナス(漫画展)→⑤7月宝達志水町:町民センターアステラス(漫画展)→⑥8月輪島市:輪島高校(漫画展)・輪島病院(漫画展)→⑦9月珠洲市:珠洲総合病院(漫画展)・飯田わくわく広場(漫画展・トークショー)だった。

年度当初は、③～⑤の予定はなく、漫画展とトークショーの準備過程に参画された現地の方々からの追加要請にての実施だった。漫画の掛け軸も、手渡しで次の会場にバトンリレーし、しつらいや留意点、

実施しての感想などを交流してつないでいった。

漫画展の期間中には、現地の方々がお有休をとって交代で当番にあたったことで、来場者との対話が叶ったし、わざわざ金沢地区から、ご自身の母校や故郷を訪ねて来場くださった方々もおられ、話が弾んだ。

漫画展会場には、「家族の練習問題」を寄贈し、トークショーの会場では来場者に抽選によるプレゼントをさせていただいた。



漫画展を実施することで、様々な化学反応が起きることが本当に不思議だった。輪島高校文化祭の帰り道に、車で送迎を申し出てくださった方から、お母さまが有名な鉄板焼きとお好み焼き店を営んでおられたが、全壊のため更地となり、石川中央地区に二次避難継続中で、こののちに再建は想定できないとお話を伺った。90歳にても店を一人で切り盛りしておられたが、地震後の二次避難中に急に難聴が進み、亀背となり、筋力低下が進み、しゅんとしておられるとのことだった。「そうであれば、うちの子ども食堂で子どもたちのためにお好み焼きを焼いていただけませんか」とご依頼すると、「それはうれしいと思う。いろんなこだわりもあって、家族で準備します。人生最後の焼きになるかも。私たち夫婦も有休をとって一緒に焼きます。」とのことで、すぐにお母さまご本人のご承諾もいただいた。

子ども食堂を開催しているえがお会館では、2024年2月より毎月第一火曜日に、「能登の人あつまれ」を実施し、二次避難先で孤立することのないように継続している。毎月20～30名の方々が必要も集まっている。進行は能登の公民館主事だった方がされている。ここで、告知をすると、皆さんは「〇〇ちゃん、どうしとったがや。更地になってしても、心配しとったがや。また逢えて、本当に良かった。」と心から再会を喜んでおられました。

そして、10月27日の子ども食堂にて、ハロウィンパーティーでお好み焼きをご披露

いただきました。美容院に行かれ、お化粧をされて、おしゃれなエプロン姿でシャキッと凛と背筋を伸ばし、てきぱきと焼かれたり、息子さん夫婦に輪島弁で指示をされる姿は、とてもかっこよくて惚れ惚れしました。外はカリッと、中はふわふわで、出汁のきいたお好み焼で、お手製のソースとマヨネーズとふりかけに子どもたち保護者からはおかわりのコールが相次ぎました。

さてさて、漫画展とトークショーは、現地の方々からの熱いリクエストで、来年三月に輪島市に参ります。この漫画展が更に広がって、新たな化学反応を起こし、継続していきますように願ってやみません。

今号は、コロナとインフルエンザにダブル罹患し、体調が十分に快復叶わず、本文「馬渡の眼」をお休みいたします。

皆様、良いお年をお迎えくださいますように。ごきげんよう。

### 馬渡の眼 休載

## 乾 京子

30年ほど以前に「じゃりんこ文庫 便り」に“子ども時代は、初めての体験の積み重ね”と書いたことがありました。だが、しかし、初めての体験は《子ども時代》に限ったことではないなあとの頃思っています。《老い》と向き合うこともそうだし、まづもって知らないことの方が断然多いのだから、(へえ、そうなん?)(えっ、初めて見た!)(わあ、すごい!)(わあ、きれい!)(えっ、それってどういうこと?)(う～ん どうしたらいい?)……なんてことが日常的に起こってきます。

頭と身体が、…頭の指令がどうやらウンテンポ遅れて身体に伝わるようで、あつと気が付いた時には転んでいたという事が起こります。10月末にも、湖北野鳥センターに冬鳥を見に行き、夫が道の駅で買い物をしている間に、道を渡って、湖岸ギリギリに行き野鳥の写真を撮ろうと石畳と草の茂った湖岸を歩いていた時のこと。頭は「気を付けて! 転ばないように! ゆっくりゆっくり!!」と、そのように行動していたはずなのです。ところが気が付けば、空が目の真正面上の方。(頭を打ったみたい。相手は石だ。どうしたもんかなあ?)(すぐには動かない方がよさそうだ。

血は出ていない。手は動く。足も大丈夫そう  
うだ。目も見えている。左後頭部、耳の後ろが痛い。う～ん、どうしたもんかなあ？夫を大津まで無事に届けられるか？夫は運転しない。)ゆっくり起き上がって、車に戻って、スマホで長浜赤十字病院救急外来を検索。ナビに入れる。そこへ夫がのんびり帰ってくる。……救急外来で2時間待って、CTの結果、たん瘤だけで脳内出血はなさそう。やれやれ、無事に家まで帰り付きました。…なんていうことも初めての体験でした。

## じゃりんこ文庫 P306～

### 中谷 陽輔

本文では、コソダテにおける「余裕」について思うところを書き始めました。そして今は「余裕」を失いがちな年末です。「やらねばならないこと」で余裕を失うこともあります。何かと楽しみなはずのイベントに向けて準備をしていく中で、「余裕」がなくなることも多々あるな、なんてことも思っております。

ちなみに我が家の年末は、2人の子どもたちへのプレゼントや当日の過ごし方についてサンタさんと打ち合わせが何度も行われたり、実は夫婦の結婚記念日が12月15日で、その翌日16日が妻の誕生日だったりして、それらのイベントへの準備・計画もあつたりします。あとは、他の共働き夫婦と同様、子どもの学童・保育園が休みになる冬休み期間をどうするかについて事前調整が必要だったり、その中でも大掃除やらのことも計画・実行したり、もちろん仕事も師走で何かとバタバタしたり…と、慌ただしい中で、やはり例年「余裕」は失われがちです。さらに昨年は、父の介護時間も必要だったりして、年末年始は特に、「余裕」を保つのがなかなか難しくはありました。

だからこそ今年は、ぼーっとする時間など「余裕」を回復する時間を、積極的・意図的に作りたいなと思っています。あと我が家では、ここ数カ月ほど、就寝前に家族4人でUNOやババ抜きなどのカードゲームを1～2回するのが恒例行事になってきました。そのため、大晦日と正月は、そんな子どもたちと、こたつを出してカードゲー

ム・ボードゲーム大会をしようと大人たちで企画し、少しずつゲームを集め始めています。こんな感じで、ちょっとしたワクワクする計画をもちながら、心の「余裕」を生み出すこともほどよく行うことも大事だと思いつつ、残り少なくなった今年の日常を過ごしております。

喪中につき新年の挨拶は控えますが、皆様におかれましては、良い年をお迎えください。

## コソダテノシンリ P266～

### 団 士郎

このところ「無知学」なるモノにはまっている。きっかけは偶然ネットで見た一冊の本。



最近、Audible に流され気味で気になっていた読書欲がこれでV字回復？したのだから興味深い。比較的新しい考え方、視点のようだが、私には新しくはなかった。ずっと自分の中にあつた感覚、カテゴリーを「ここでどうですか？」と提示された気がしたのだ。

知の優越意識やアカデミズムの権力性に、長らく腑に落ちなさを感じていたので、無知学の整理や学際への様々な言及が面白い。

無知学／アグノトロジーは2023刊行の「現代思想」で特集されていたと知って、バックナンバーをポチったが、その巻頭対談も面白い。

近年なかなか本が読み切れない傾向が続いていた(面白くなってしまつて中断)が、この本は間もなく読了しそうだ。

更に実は、読み終えないうちに頭から再読を開始している。すると初めて読んだときより面白く、アンダーラインを引きたくなるところが変化する。そしてなにより、初

読時よりも分かるのだ。

研究者の多くはこのような読書の仕方をしているのかとも思うが、私は読み飛ばし派だから、こんな読み方をしたことがなかった。それでも、本当に内容を理解しているのか、自分の都合良いように誤読しているのか怪しいところはあるが、まあそれが読書だろう。

とにかく「無知(未知)」は劣位なものでも、克服されるべきものでもない。意識化された限られた知(知識)以外の、あらゆる平面に膨大に存在しているものなのだ。

個人が己の関心を頼りに恣意的にピックアップしたモノを深めてゆくのは自由だが、それが優れているなどと思いたがるのには少々苦笑い。何か見つける度に大発見だと騒ぎたい人間を静かに黙って見つめている存在。この無知、未知という基本状態に気付かされたことで、自分がこれまでしてきた様々なことのあり方が納得だった。

それを、知を得た感覚ではなく、無知であることを自覚する感覚で納得できたのは、とてもすっきりした気分だった。そんなことを言うと、ソクラテスなどが登場してきそうだが、まあそれはよいとして、

## 晩年D・A・N通信 &

## 『木陰の物語』を 家族の構造理論で詳説する P35～

### 内田 一樹

11月23日から26日まで福島県浜通りスタディツアーに行ってきます。

2回目の浜通りスタディツアーです。この間自分自身も心身の調子を崩しており、ベストコンディションとは言えない状況です。こうした状況の中だからこそ気づくことができたこともありました。それは対人援助学という学問に対しても新しい視点をもたらしてくれました。

## 社会科の授業を 対人援助学の視点から P275～

### 宮井 研治

年の暮れである。一年が早い、あまりに

も。歳をとると、早い、早いとは聞いていたが、実際に渦中に身を置くと、年中行事が右から左に過ぎ去っていったかと思うと、また立ち現れる感じというか。盆、クリスマス、正月、盆、クリスマス、正月、盆、クリスマス、正月……のリフレインの目まぐるしさ(我ながら、季節感を表す行事の認識の乏しさには恥ずかしくなるが)。この先は、季節感さえなくなり、夏冬の面裏のスピード感ばかりが全面に出てくるのかと思うと、げんなりする。まあ、でも、夏と冬、あるだけマシと思いたい。



先日、私のライフワークであるキャンプに久しぶりに出かけた。ソロではなく、仲間と一緒に。でも、昨今の熊騒ぎである。そのキャンプ地周辺は熊情報もなく、皆、高を括っていた。もちろん、出なかった。しかし、キャンプの初日明けの朝、仲間が昨夜は眠れなかったという。「カサ、カサ」という音に一晚悩まされたい。「熊か!？」他の仲間に、スマホで知らせるべきかどうか真剣に考えたようである。でも、下手に動いて熊を興奮させるのもどうか。いろいろ考えているうちに寝入ってしまったらしい(結局、眠ってるんですが!)朝起きて、おそろおそろ確認すると、めくれたテントの一部が風のせいで、テントの他の部分に触れていたらしい。キャンプをやる方ならお分かりになると思うが、テントの中では、静かな夜など、やたら周りの音がクリアに身近に反響して聞こえてくるのも事実である。私といえば、「熊さん、わたしの大切なライフワークを奪わないで!」と、これからのキャンプについて願うばかりである。

## 人生は対応のヴァリエーション P301~

### 櫻井 育子

思えば思ったとおりにになっているのかもしれない。小学生の時は喫茶店、中学校の時は芸術家、高校でカウンセラー、大学で先生、というのが「夢」として描いていたもの。ふと思えば逆から順に叶っていることに気がついた。先生をやり、カウンセラーをやり、昨年あたりから芸術家というのも現実化しており、もしかしたら次は「喫茶店」なのか!?

計画通りにしたつもりもないし、ただ「嫌なことは嫌だな」というのは明確な子どもだった。何をしても中途半端な気がして、資格を取ることもモチベーションが湧かない人間で、気がついたら役立つような資格は運転免許だけだった。

一方で突き動かされたらすぐ決断してしまう。だから遊さんのブログを読んで教員を辞めた。土郎さんの漫画をどうしても紹介したくて石巻で漫画展を開催した。そういう猪突猛進性はたぶん「長所」だ。というより、だからこそ掴んできたラッキーなことはたくさんある。そろそろ落ち着いたらいいのでは、と一時期思っていたが、もう気にしないことにした。

ここから先の時代をつくっていくのは、先がわからなくても「自分に安心できる人」そして「はみだすことを恐れない人」だと本気で思っている。不安は不安を煽る。そうやって混乱してきた時代を、安心して生き延びるための改革は本気で必要だ。これからより一層調子に乗って走ろうと思う。

#### 生涯発達支援塾 TANE 代表

[shukou0122@gmail.com](mailto:shukou0122@gmail.com)

<https://ikuko-sakurai.com>

#### 現象学としての書道

P264~

### 鳴海 明敏

備忘録

県庁職員を定年退職した翌月、2010年平成22年4月に新規開設された児童心理治療施設青森おおぞら学園の園長を引き受けて、15年間勤めました。

2024年令和6年秋に軽い脳梗塞で入院し、それを機に翌2025年令和7年3月で園長職を退き、現在は法人の理事長として、週に3日職場に顔を出すという生活をしています。

だから、週のうち4日は、家に居て家事見習い中です。メモを持っての買い物も、だんだん板についてきたような気がしています。商品によっては、「底値」も分かるようになりました。

そんな生活をしながら、思い出したことや気が付いたこと、整理しておきたいことなどのあれやこれやについて、思いつくままに書き残していこうかと思います。学園の子どもたちのことを紹介することもあるかと思いますが、それなりのカモフラージュを施しています。

今年の11月の連休には、千葉県内で家庭を持っている次女が家族全員で帰省するというので、家の中の片づけやなりにやらで、忙しく過ごしていました。ところが、悪い予想は当たるもので、小学3年生の妹がインフルエンザ罹患ということで、直前になり帰省はキャンセルになってしまいました。その後、中学生の姉もお父さんも罹患したとのことでした。

月一のペースで開催している「フォーカシングの会」と、同じくらいのペースでウェブで開催している「(カウンセリング関係の)文献を読む会」への参加が楽しみです。

#### 理事長の独り言

P262~

### 高木 久美子

新たに何かが生まれることを見ることは、心がワクワクします。椎茸です。

10月の終わりに信州を旅行し、かねて栽培してみたいと思っていた椎茸の原木を2本入手しました。直径10cm余、長さ1mほどの菌打ち済みの立派な原木です。よくテレビで腰の高さあたりから斜めに交差して立てかけてあるのを見ますが、できるだけ低い位置で横置きにしてくださいとのこと。

きのこといえば木々の間の薄暗い湿ったところに生えているような印象だったので、裏庭の雑草ぼうぼうのところはうってつけだと思いましたが、雑草はちゃんと取るか防草シートを敷くべしとの助言。

美味しい椎茸食べたさに素直に諸々アドバイスに従って環境を整え、毎日楽しみに眺めること約1週間。11月5日、1本の原木に1つ、小さな椎茸の赤ちゃんができました。可愛い。こんなに椎茸を愛おしく思ったことはありません。成長の仕方は、先ず軸がにゅっと3cmほど伸びた後、傘の部分が急速に大きくなってきました。その後椎茸はどんどん大きくなり、11月18日ついに収穫しました。



大きくなっていく第1号に目を見張りつつ他にはまったく出てくる気配がないことに少し不安を覚えました。18日の初収穫の頃には、同じ原木からまた1か所椎茸が登場し、今度は3つ子で第1号とはまた別の楽しみで成長を見つめました。1号ほどではなかったですが、3つ子もどんどん大きくなる様はとて迫力がありました。その後もう1本の原木からも無事椎茸の赤ちゃんが出てきましたが、こちらはずっとまったく出現がなかった半面、たくさんの菌打ちの箇所から一気に椎茸がどっつと出てきて感動。またも壮観でした。

原木にもそれぞれの椎茸にも個性があり、当分目が離せそうにありません。肉厚で、味は絶品です。

ヨミトリとヨミトリ君で  
ご一緒しましょう！  
P252～

## 畑中 美穂

海外のお土産にハンドクリームをいただいた。パッケージに少しは英語が書かれているもののほとんどがその国の文字で書いてあるので成分などもわからない。封を開けるとよい香りがして、手に塗ってもさらっとして気持ちいい。何の香りだろうか。何かはわからないけれども、『外国の匂い』。アロマオイルやキャンドル、紅茶やお香などでも日本では馴染みのない香りというものがある、そういう意味でどこか懐かしい、『外国の匂い』。「手肌を保

湿し、乾燥を防ぐ」といった本来の効果だけでは足りない贈り物をいただいた。

一語一絵  
P233～

## 山下 桂永子

いよいよ師走ということで、11月からずいぶんお坊さんが全力疾走しているかのように予定がぎゅうぎゅうしております。

そんななか今年もいろいろと旅に出ました。1月に飛騨高山と白川郷、3月にタイ、7月に台湾、11月に長崎の五島列島、合間に日帰り東京や博多に行って美術館巡りや美味しいものを食べるにも行きました。どの経験も素晴らしく、驚きと学びに満ちていました。旅に行くとその土地の美味しいものを食べ、美しいものをみて、積み重ねられた歴史や文化に触れると、なんだか自分の心や人生がとても豊かになったような気持ちになれるのですが、日常に戻るとあれもできていない、これもやっていないと自分の足りないものばかり目についてしまいます。したいことは勢いでできるのに、やらなきゃいけないことはとことん先送りの人生です。

また今年も本棚にある「どんなグズもなおる本」を読み返し、1人反省会をする年末恒例の儀式を行うことになりそうです。内容とは関係がないのですが、読んで頂ければ幸いです。

心理コーディネーターに  
なるために  
P147～

## 渡辺 修宏

「対人援助をレポートするこの一冊」と称しつつ、現在は漫画を紹介させてもらっています。漫画であれば万人向けの敷居の低い作品をガンガン紹介できると思いきや、意外や意外、逆に、作品を選ぶのに悩む悩む。…でも、その過程であることに気づいたなり。漫画って…トータルアートなんですよね。

対人援助実践をレポートする  
この一冊

P238～

## 玉村 文

今回のテーマは母子旅、未就学児3人を連れての旅行の記録です。母子旅とはいえ私にとっては「リトリート」でした。リトリートとは、日常から少し離れて心と体を休め、自分自身と深く向き合うための時間のこと。静かな自然の中で、慌ただしい日常から一歩離れることで、心の声や本来の自分に気づくプロセスです。

伊豆高原の海と風、温泉、そして子どもたちと過ごすひととき。それを通して、私は「今ここにある幸せ」を丁寧に感じ取る時間を過ごしました。

仕事や子育てに追われる毎日の中で見失いがちな“自分の感覚”を、少し取り戻したような旅になりました。

応援 母ちゃん！

P215～

## 杉江 太郎

子どもの福祉領域で働く杉江と言います。前回の短気で職場の道路工事が行われていると書きました。その工事は急ピッチで進められ、歩道も広くなり綺麗に舗装され、草刈まで行われる始末。その数日後、天皇・皇后陛下が通られることになり、やはりそのせいだったのかと想定通りのことが起きました。イベントも無事終わりましたが、車道を4車線にしたにも関わらず、交通量にそれほど変化なく、ただ無駄に広い道路ができてただけに終わっています。

そんな中、ついにカフェのマシンが壊れてしまいました。売り上げに影響するため、すぐに新しいマシンを調達。新しいマシンはスマホとBluetoothで繋ぐことができ、アプリをタップするだけでコーヒーを注ぐことが出来ます。とは言っても、カプセルをセットしたり、捨てたりするのは手作業です。

道路にしても、マシンにしても、無駄が付き物のようです。その無駄だと思っても、同僚と話すための話題提供には役立っています。短信を書くためのネタにもな

りました。無駄なものにもきちんと意味があるようです。

「余地」-相談業務を楽しむ方法-  
P193~

## 米津 達也

今回、人生初のフルマラソン完走を通じて世の中の視方が変わったが、これは3年計画の1年目に過ぎない。最終的には、米津50-50(フィフティ、フィフティ)計画があり、50歳になった年に比叡山トレイルランニング50kmレースの完走を目標にしている。50歳まで3年を切った。やれることは、今、やっておこうと淡々と足を進めるのみだ。



川下の風景  
P224~

## 川畑 隆

大学時代の心理学科の同級生の一人が退職して京都に戻ってきたので、「おかえりなさい」呑み会をやりました。

昔懐かしい四条の『とみ寿司』から居酒屋『静』に流れました。お店はいずれも50年前のまま。それが第1回。「それじゃあ、元気で。またいつか」とはならず、結局来年1月の「例会」が9回目になります。2

回目以降は京都劇場の横のそば処『徳兵衛』→天満近くの小さな呑み屋→四条木屋町の寿司居酒屋『杉玉』→近鉄八尾近くの呑み屋→京田辺の『屋台ずし』→出町柳の『つなぐ食堂』→京橋の居酒屋『みつぱち』と続いて、次は京都府庁前の『味房・かまん坐』です。

最初は4名だったのが8名の回もありたりして、そのうちの1名が関東の実家に移り住むことになったので、「関東部会」を作ろうなんて声もあがっています(作ってどうするのかは知りませんが)。6回目は母校同志社大学の京田辺校地を巡りました。7回目は今出川校地から出町柳までを散策、9回目は今出川校地から京都御所、護国神社詣で、そして『かまん坐』へというコースになっております。

以前このマガジンに連載させてもらった『かけだ詩』に、「当時はまぶしいほどのエマニエルにいちやんず 今も輝いているかな? エマニエルじいちゃんず」と書きましたが、そのじいちゃんずや、そうじゃなかった同級生も集っています。1人は8回目に岡山から駆けつけました。もう1人閉じこもっているらしい奴を引っ張り出そうと2度ハガキを送りましたが、返事がありません。あまりしつこいのよくないし3度でやめときます。

71歳が最年少のささやかな老春?…いや、『♪そうとも、これが青春だ!』

私の頭の中のまだエンピツ  
P210~

## 浅田 英輔

お役所あるあるだが、秋以降は研修会が続く。春は前年度締めで忙しく、夏は今年度の準備で忙しいため、9月以降に研修会が集中することが多い。本業の行政説明のほか、心理士協会への研修会の依頼が結構ある。いくつかは名指しで依頼をいただいている。謝金を出してくれるものは、きちんと手続きをしてありがたい。ちゃんとみてみたら、9月から土日両方休みのところがない! 次の休みは12月27日だということに今(11月末)気づきました! 平日休まなければ!

臨床のきれはし

P98~

## 松村 奈奈子

9月に遅い夏休みをとって、今年は栃木県へ旅に。栃木県、実は、生まれて初めて訪れました。

北関東は遠くて、関西人にとってなかなかハードル高かったです。かの有名な日光東照宮、思っていたよりカラフル、そして人の多さにびっくり、やるな一徳川家。あの有名な、左甚五郎の彫刻「招き猫」やお猿さんシリーズ、多くの観光客に交じって写メしっかり撮りました。他にも大谷石地下採掘場や中禅寺湖などなど、見どころいっぱい。栃木を満喫しました。とってもおいしい宇都宮餃子を食べながら、日本にはまだまだ行ってない魅力的な街があるなあとしみじみ思いました。

神科医の思うこと

P131~

## 村本 邦子

今月、両眼とも白内障の手術をした。2週間ほど大変だが、多少ペースダウンしながら粛々と日常をこなした。これからだんだんと体もいろいろ問題が増えていくだろうが、あまり振り回されずに、状況に合わせてできることを重ねていきたいと思っている。

視力が安定するまで1ヶ月ほどかかるようだが、基本的によく見えるようになった。これも科学の進歩、機能的にはありがたいことだと感謝しているが(文句言ってバチが当たったら困る!)、主観的にはサイボーグ感が拭えない。ChatGPT とかが脳神経と接続したりするような日も遠くないんじゃないだろうか。



周辺からの記憶

## 國友 万裕

このところ引っ越しを考えています。今住んでいるところは早いもので、もう13年近く暮らしています。

25歳の時、アメリカ留学から帰って、千本通で暮らし始めてもう36年以上が過ぎています。その間、2度引越しはしたのですが、至近距離での引越しでした。アメリカ留学前の1年半は西院のところで暮らしていたため、中京区暮らしはもう38年ぐらいということになりますよね。

65歳や70歳を過ぎると貸してくれる物件は減ると聞いています。貸す方の人たちからすれば、そこで死なれたりしたら困るというのがあるのでしょうか。だから65歳になる前にどこかに引っ越さないと、思っているんです。

今のところで一生暮らしても構いませんが、どっちみち京都で一生暮らすんだから、他の京都の地域を味わってから一生を終えたいとも思うんですよね。

さて、どこにしようか。今考えているのは、出町柳です。何故、出町柳なのか。また、そのことに関しては、連載の中で書きたいと思います。

### スポーツおじいさんになりたい！

P85~

## 三浦 恵子

9月末、日本司法福祉学会理事会・大会への参加のため約半年ぶりに関西に向きました。私にとっては約40年過ぎた思い出の地であり、久しぶりに母のお骨を収めたお寺にもお参りしたいと考えていました。

しかし時は大阪万博閉幕直前、交通機関も宿も大混雑！ そういえば学会案内にも「宿の確保はお早目に」という記載があった・・・と思い返し、手際の悪さを反省しました。

「1970年のこんにちは〜」(三波春夫)の大阪万博の時もきっと同じような熱気だったのだらうと思ひ起こしています。

思えば、今年3月、和歌山の施設で療養している父の状態が悪化し急遽そちらに向かうことになった際も同様の大変さが

ありました。下記は同僚とのやりとりです。同僚「何度も往復するのも大変だから、週末は和歌山で過ごしてくるのもいいのでは」

私「いや、もうあの地には私の居場所なんてないから(ふっ)」(寂しげな表情)

同僚「いや、そんな・・・」(悪いことを聞いてしまうたか！・・・)

私「和歌山はパンダ様とパンダ推しの方々に席捲されているので、私のようなものは宿すらとれないんですよ・・・」

同僚「パンダかーい」

パンダ返還前に「もう一回会いたい」という方も多く、和歌山も大混雑でした。

(なんとか和歌山で宿も取れて、父も回復したのです)

### 現代社会を「関係性」という観点から考える

P187

## 竹中 尚文

私は坊さんとして葬儀に関わる機会が多い。私は葬儀の経済的状况を分かっているつもりでいた。このところ私と近い関係の人が亡くなって、お葬式という機会が続いた。近い関係であるから葬儀会社との交渉にも立ち会う機会も得た。そして葬儀にかかる費用の相場が町によってずいぶんと差があることに驚いた。ある町では3~50万円ほどに見えるお葬式が他の町だと6~80万円だという。さらに130万円以上もかかる町もあった。もちろんお葬式は個々に依頼する内容も異なるので一律の比較は困難だ。それにしても、この差異は大きすぎる。

◆この3つの町の違いは、まず町の大きさだった。最も安価だったのは田舎町と呼ばれる所だった。小さな町はリアルなコミュニケーションが多いように思う。お葬式に関心を示すのはある程度の年齢の高い人たちだ。自分や配偶者のお葬式があり、親のお葬式がある世代だ。小さな町で交わされるのは実際の言葉であり、リアルなコミュニケーションである。彼らがSNSなどのツールを使ってお葬式を話題にする事例は少なそうだ。仮想空間やTVコマercialで提供される情報は葬儀業者によるものが少なくない。仮想空間で話されるお葬式の話は意図を持って発信された

ものが多い。そうするとネット上でAIが回答してくれる仕事の情報は、「えっ？」と首を傾げたくなる回答が少なくない。

◆リアルなコミュニケーションによる地域社会の形成は、私たちの生活そのものを守るように思う。



### 路上生活者の個人史

P83~

## 坂口 伊都

この3か月、目まぐるしく過ぎていった印象です。9月に友人に会いに横浜へ。15年ぶりの再会でした。年を取っても学生時代に戻りますね。その次の週に大阪万博へ前の職場の同僚と行きました。会場は見事な人の群れ。大回廊からの眺めが圧巻でした。

10月に西川実行委員長に誘われて2年連続で対人援助学会大阪大会実行委員をさせていただきました。大会には多くの方に参加していただき、無事に終えることができました。ありがとうございます。準備期間中からドキドキすることも多々ありました。それでも、皆さまのお力を借りてやりきった感じです。こっころ一むのフィールドワークから始まって、ずっと興味深さを感じた大会になりました。今回参加が難しかった皆さま、次回の大会でお会いできるといいですね。

また、10月から非常勤で里親支援の職に就きました。これまでの経験が役に立てば嬉しい限りです。新たな仕事が始まると慣れるまでにはまだ時間がかかりそうですが、今後どういう展開になるのか楽しみです。

### 療育手帳の向こう側

P108~

## 河岸 由里子

公認心理師・臨床心理士・北海道  
かうんせりんぐるうむ かかし 主宰

## 先人の知恵から

P151~

### 中村 正

【安楽死】先日小耳にはさんだのは、スイスで「安楽死」の話。「生きる権利があると同様に死ぬ権利がある」という人が居る。自殺予防に勤しんでいる身としては、「安楽死」を認めたくはないが、自分がもし不治の病にかかり、痛みに苦しみ、子どもたちに迷惑をかけるようになったらどうだろう？ きっと緩和ケアで過ごすだろうとは思いますが、とりあえず「安楽死」についてググってみました。

日本ではもちろん認められていないが、海外ではオランダなど認めている国もある。アメリカでも数州で認められている。但し外国人の受け入れはスイスのみ。スイスでも「積極的安楽死」は法的に禁じられている。認められているのは自殺ほう助である。自殺ほう助の団体が複数あり、まずそこに入会する必要がある。入会金は1万円足らずのようだ。その後審査がある。「治る見込みがない」「耐えがたい苦痛や障害がある」「健全な判断能力を有する」など各団体で定めている条件をクリアする必要がある。病状などの詳細を英語で書いたものが必要だし、英語、独語又は仏語での面接もある。費用は処置費、渡航費、滞在費などで200万~300万円。処置費は200万円くらいとか。医師がセットはするが、スイッチを押すのは自分自身だそう。点滴のバルブをひらくのだ。その後医師の死亡診断書、警察への報告などが行われ、遺体処理をしたのち日本へ遺体移送となる。遺体移送費は遺体処理費等を含むと100万~300万くらいかかるらしい。総額最大600万、日本に戻ってから葬儀をするならそれが加算される。それでも何年続かわからない介護や薬品に費やす費用よりは安いのかもかもしれない。日本人が登録できる自殺ほう助団体は二つある。既に100名弱の日本人が登録しているという。

今後、「すべての手続きをサポートします」というキャッチフレーズで、「安楽死」への旅を企画する旅行会社が出てくるのかもしれない。或いはいずれ日本でも自殺ほう助が法的に認められる日が来るのかもしれない。昨年放送された報道をみたり、いろいろな記事を読んだりし、考えさせられた。

## ああ、相談業務

P76~

この間に書き溜めてきたものが相当の量になり、まとめて出版したらという要請を受け、編集をしていたが、ようやく出版となった。『脱暴力の臨床社会学』（人文書院）である。400ページ近いので高い。5280円もする。近くの図書館で購入希望をだして読んで欲しい。このマガジンの連載も一部だけ入っている。それでもまだかなりの分量が残っており、別に出版予定である。これまで書き散らかしてきたものを整理したので自分が何を発言してきたのか振り返りになる。マガジンは原稿そのままなのでいいのだが、共著本や雑誌論文は初校、再校と続けているので修正がある。

最終的に出版されたものをスキャンしてテキスト化し、完全版としてワードファイルにする作業をしてきた。ようやくそれが完成し、35年間にわたって書いたものをテキストにできた。それにしても最近のデジタル技術はたいしたものである。スキャンしてテキスト化する際の精度は概ね完璧である。今回出版した原稿を除き、既発表の原稿、このマガジン、またweb記事など合わせると、全体としてA4ワードファイルで1300ページくらいはある。次はこれをアップデートして出版原稿にしていく作業をしている。さらに、一般社団法人を創業して新しい活動もはじめたのでなお蓄積している。このマガジンも終わりは見えない。発信したいことが山積なのである。

「楽しそうに退職しましたね」と周囲の人から言われるので、動きは止まらない。まあしょうがないか。



## 臨床社会学の方法

P22~

## 中島 弘美

CONカウンセリングオフィス中島は2025年11月で、30年を迎えました。

30年前の1995年、1月17日に阪神淡路大震災を経験し、三か月ほど勤務先での仕事がストップしました。人生、何が起こるか分からないということを実感しました。これから、どうするのが良いのだろうかと思つめなおし、考え抜いての事務所スタートでした。

今日まで多くの方々に支えていただき、続けることができました。心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

## カウンセリングのお作法

P32~

## 黒田 長宏

本文に書いたバーチャルサロンだが、これを見ると、東京都大田区で実際にこういうサロンを作ってみたいというイメージがわかる。それまでの間に考えている策もある。

## ああ結婚

P166

## 脇野 千恵

今年も草津で、団士郎先生の漫画展と講演会を開催できた。講演を聞きに来てくれた人が10人ほど。久しぶりに出会う人もいた。地域の市民活動の場でもあるので、フロアでの講演はざわざわすることあってハプニングもあったが、それもありがた。漫画展を見に来た人が、講演も聞いてみようかなと思ってくれるのが嬉しい。

市のコミュニティ事業団の人が休日出勤をして、色々と機材を調達してくれた。感謝だ。

漫画展の打ち合わせのとき、事業団の人に尋ねられた。「子育て真っ最中で、子どもに何か問題が起こったとき、それってやっぱり家族なんですかねえ」と。難しい質問だと思ったので、「一度お話を聞いてみませんか」とアドバイスした。家族のことを長く勉強しているが、同じことを何度も何度も学んでいるのに、飽きることはないのには不思議だ。自身はあまり賢くはないが、気に入ったこと好きなことはコツコツ続けることは苦にならない。自分がいいなと思

ったことは、すぐに人に話すのも好きだ。相手はどう思っているか知らないが…。団先生の「やってみたら！」という言葉がいいなと思っている。

問題が起こったとき、家族でできることはやってみよう、できない時は助けてと言えればいいと思えるのは、長く家族のことを学んできた大きな成果だと思う。そんなことを人に上手く伝えられるといいなとも思う

## こころ日記「ぼちぼち」

P 227～

### 岡崎 正明

「人生は旅である」と言ったのは誰だったか。中田英寿？スナフキン？まあ誰でもいいが、今年はいろいろなところに行かせてもらった、旅の多い年だった気がする。大阪、北海道、山口、兵庫、福岡、香川、島根、滋賀。初めて行く所もあれば、久々の場所から、何度も来たけど意外とちゃんと見ていなかった所まで。知らないことを知り、世界の広さを認識する。旅の形や目的は、人や場面によってそれぞれだけど、私にとっては心が動く貴重な時間だ。

そういう意味では、今年は物理的な移動を伴う旅も多かったけど、未知の体験を通して出会いや発見をする、精神的な旅・冒険も多かった。自著を出版する、記者会見をする、取材を受ける、ラジオに出る、本屋に営業する、親を亡くす、研修を企画する…。どれも非日常的で、驚きや戸惑いもあるけれど、とても大切なことを教えてくれる時間であった。そんなところへ連れて来てくれた周囲や、辿り着いた自分の幸運に感謝である。

来年も何が起こるか分からないけど、きっと楽しいことも、しんどいこともあるだろう。いろいろな場面を大切に味わい、感謝しながら面白がって生きていければと思う。そんなわけで皆さん、ちょっと早いけど、どうぞよいお年を！

あ、そういえば年明け早々、当学会のオンライン研究会で話をさせてもらうことになった。家族を再発見し、自己理解につながり。親の介護や看取りのあり方。そんなことに興味のある方、よかったらご参加ください。

2026年1月23日(金) 20:00～22:00  
『自分史・家族史づくりがもたらす、相互理

解とケアのかたち ～援助職がムスコとして味わった物語～』学会 HP から申し込みフォームへ(参加無料)

## 役場の対人援助論

P 93～

### 千葉 晃央

「家族支援と対人援助ちばっち」(家族支援と対人援助ちばっち 家族療法千葉晃央 福祉)の名前がウミガメの調査基地の外壁にあります。

鹿児島県屋久島のウミガメの生態調査に「家族支援と対人援助ちばっち」として協賛しています。屋久島は、北半球最大のアカウミガメの産卵地です。アオウミガメに関しては日本北限の産卵地です。協賛をした日本ウミガメ協議会屋久島支部(日本ウミガメ協議会トップ)さんは、ボランティアを中心に屋久島内海岸でのウミガメ上陸産卵状況、産卵環境状況などの生態調査をしています。未来でも同じ光景が見られるよう、環境保全、生態調査を微力ながら支えたいと思います。

カメは大好きです。長年カメを飼い、一緒に寝台列車に乗って大阪から秋田の実家に帰ったことも複数回あります。長生きのカメで家族よりも長く同居をしていた時もありました。自分を動物に例えると？というワークではいつもカメを描いてきました。アレルギー、アトピーがある私には体毛がある動物との同居は難しく、その中でカメは唯一一緒に過ごせる存在でした。

屋久島のこの活動をしているのは、私の幼なじみ大野睦さん(ネイティブビジョン代表ネイティブビジョン | 屋久島縄文杉ツアー・白谷雲水峡ガイド | 世界遺産エコツアー専門会社)です。対人援助学マガジンにも以前に連載をしてくださいました。以前、屋久島に行った時には、産卵の中心となる永田浜を案内していただき、上陸したウミガメ、孵化した子ガメに会うことができました。かわいいし、感動的でした。そして、屋久島の自然にも感激しました。

皆さんも、ぜひ一度屋久島へ、そしてウミガメに関する活動に注目してみてください！そして、ちばっちのマークのデザインは、マガジン連載の小池さんです。こうして皆様に支えられています。



家族支援と対人援助 **ちばっち**

[chibachi@f2.dion.ne.jp](mailto:chibachi@f2.dion.ne.jp)

090-9277-5049

## 障害者福祉援助論

P 17～

### 見野 大介

ようやく秋になり、窯焚きも苦ではなくなってきた。ただ、11月だというのに未だに蚊が…。糞糞作ったり、粘土の再生作業したり、冬になると苦行でしかない屋外での作業が溜まっているから、なんとか今月中には終わらせたい。

## ハチドリの器

P 4

### 柳 たかを

今回の連載は宮沢賢治の「座敷ぼっこ」の話を下敷きにしました。「座敷わらし」ともいいますね、古民家の何処かに棲みついて、住んでいる人間が、彼(座敷わらし)にとって好ましい人達なら色々「福」をもたらしてくれるといいます、逆に人が自分の欲にとらわれだすと、興味を失っていつの間にかいなくなるそうです、

今、学歴詐称や疑わしい難民認定など怪しい事案が多数押し寄せて来ていますよねー、座敷わらしならこういう人達をどう評価するんだろうなんて、そんな妄想をしているところです

## お客

P 135～

### 荒木 晃子

盛会のうちに対人援助学会を終えた。

大会実行委員としては大してお役に立つことはできなかったが、開催校での盛會に、大会長の N さんは安堵しておられることだろう。N さんと言えば、二日に渡る学会期間中、いつも慌ただしく走る姿をお見かけしていた。まるで背中に元気玉を背負っているかのようで、こちら元氣とやる氣をもらえたような氣がしていた。大会長をはじめ、関係者の皆さん、本当にお疲れさまでした。コーディネイトした理事会企画は予定通り、とははいかなかったものの、参加して下さった会場の方々から、本テーマへの関心の高さをはかることができたように思い、感謝している。

これまでは「性と生殖」をテーマに「不妊」に関連付けて記述してきた。前提として、あくまでも男女のマジョリティ・カップルが対象であった。今後、これまでの男女二元論という限定的な視点では語れない。さて、どうなることやら。

### 生殖医療と家族援助 P 80~

## 古川 秀明



20年ぶりに島根県を旅しました。そのライブハウスに招かれ、ライブをしました。マスターは沖縄県出身で蛇の皮を張った三味線「三線(さんしん)」と呼ばれる伝統楽器を自在に弾きなされます。これは蛇皮線(じゃびせん)ですね?と尋ねると、沖縄では蛇皮線(じゃびせん)と言わなくて三線(さんしん)というそうです。蛇皮線(じゃびせん)というのは本土の人だけだそうです。そこでマスターにお願いして沖縄の唄「ハイサイおじさん」を一緒に演奏して歌いました。口笛や踊

りが飛び出し、大変盛り上がり、会場はまさに興奮のつぼと化した沖縄でした。こんなとき、音楽をやっている良かったですなあと思います。

### 講演&ライヴな日々 P105~

## 原田 希

原稿締め切りの1週間前が母の命日なので、それが終わるまでは手付かずのままゆっくりしてしまいます。大好きだったイチゴを買いに行っただけで売ってない季節で、ケーキをひとつ買ってきて、紅茶をいれてあげました。水を入れたマグカップを電子レンジでお湯にしてティバックをいれブクブクする方法で。鍵っ子だった私が安全に紅茶をいれてひとりでもおやつタイムを楽しめるように、と母が操作を教えてくださいました。今はIHっていう火を使わない台所があるねんで、と写真の中の母に教えてあげました。いい命日でした。さて原稿!原稿!

### 原田牧場Note P207~

## 野中 浩一

主な仕事を一時的に引退し、自由になる時間が増え、ささやかな変化を感じています。

- ①洗う物をする機会が増えた、②色々な人と話したり食事したりする機会が増えた、③散歩をする機会が増えた。

まあ良くも悪くも大したことは起こらないですね。ありがたいことです。

そんな日々の中で、今年度は島根大学の社会教育主事(社会教育士)の講座を受講しながら、50名の社会人受講生と、サポーターの方々と、活発に情報交換をさせてもらっています。

[coconollp@gmail.com](mailto:coconollp@gmail.com)

### 島根の中山間地から Work as Life P245~

## 西川 友理

大阪キリスト教短期大学で保育幼児教育者養成に、またそれ以外の場所でも福祉系対人援助職養成に携わっています。昨年あたりからおやこ対話のファシリテーターとしていろんなところに顔を出させていただく機会がぼちぼちと出てきました。

さて、去る10月11日・12日、対人援助学会第17回年次大会にご参加くださった皆様、本当にありがとうございました!皆様のおかげで大変盛り上がった、学びの多い学会になりました。ひとつ、こぼれ話を紹介します。

「ガツカイ」というものが何かも知らなかった18歳の学生が、チラシを見て「面白そう!」とお手伝いを申し出てくれました。色々動き回り、ポスターを見て回り、分科会に参加し、何もかも終わった後、感想を聞くと「もっと勉強したい、と思いました」という言葉が。「だれかを支援する、って本当に色んな人が関わる事なんやなって、めっちゃ思いました。支援の場って、本当に色んな人がいるんですね。もっと色々知りたい。色んな人に会って、いろんなことを勉強したい!」とのこと。ああもう、こんなこと言われると、ほんとにたまらなく嬉しいです。それもこれも、学会で彼女に出会ってくださったみなさんのおかげです。

対人援助学会は、引き続き、1月23日にオンラインで研究会が開催されます。ぜひご参加くださいませ!

### 福祉系対人援助職養成の 現場から P71~

## 松岡 園子

—母の「きちっとさん」事件簿—

母は几帳面な性格で、物の位置も日々のルーティーンもピタッと決まっています。少しでもズレると、すぐに世界がざわつくらしい。朝、30分寝坊しただけでも、「今日、世界が狂った?」かのような真顔のパニック。スマホがパスワード画面を出しただけで「え、何が起きたの?」と大騒ぎ。その小さな大事件が起きるたびに、つい笑ってしまいます。

### 統合失調症を患う母と ともに生きる子ども P197~

## 寺田 弘志

久しぶりに歯のかぶせ物が欠けたので、いつもの歯医者さんに行きました。すると前みたいに、粘土で型をとることがなく、3D スキャナになっていました。「精度はいかがですか？」とたずねると「粘土は温度などで膨張・収縮するので、粘土より誤差が少なくなりました」ということでした。3Dスキャナは全国の4分の1くらいの歯医者さんで導入されているそうです。私もずいぶん前のことですが、3Dスキャナが出だしたころに、施術用に購入したことがありました。しかし、スキャンするのに時間がかかる上に精度が悪くて、使い物になりませんでした。

大丈夫なのかなと心配していましたが、かぶせ物をつけてもらうと、まったく違和感がないのに驚きました。パソコンでかぶせ物の形状まで指定でき、院内のミリングマシンで削り出すことも可能だそうです。

今はまだ歯科技工士さんに加工を依頼しているとのことでしたが、歯科技工士さんの仕事が減っていくことは容易に想像できませんでした。

いつか施術用ロボットができ、柔道整復師の仕事が減りだすのも、そう遠くない未来なのかもしれません。

いつも「誰か施術してくれへんかなあ」とぼやいている私が、真っ先に施術用ロボットを買うかもしれません

今回も本文では、パラドキシカルストレッチングの説明をしていきます。

### 接骨院に心理学を入れて P174~

## 篠原 ユキオ

『旗本退屈男になった日』

中1の孫が10月に運動会の3人4脚で倒れてオデコに大きな怪我をした。直後は大きなキズパワーパッドを貼っていて痛々しい状態だったが10日もすると綺麗に治っていた。同時に一緒に潰れた額のニキビも綺麗に無くなってその回復力にあらためて感心した。

その数日後、次女から「来週オデコ手術するねん」と告げられて驚いた。1年ほど前から額にできていたコブがどんどん大きくなってきたので切除する事になったと

いう。

毎日のように顔を合わせていたのに気が付かなかったのは前髪で隠れていて分からなかったのだが父親としてはわが子の綺麗な顔に傷ができるという事がショックだった。さすがに手術の日は落ち着かず、次女からのメールが届くまで仕事が手につかなかった。

幸いに手術は無事に成功し、今はほとんど傷跡もわからない状態になっているのだが、その手術から間もない頃に今度は僕が怪我をしてしまった。

足元の電気コードに足を引っ掛けて倒れ、机に額をぶつけてしまった。額が割れて血が止まらない。片手で額を抑えながら次女に電話してキズパワーパッドを買ってきてもらった。

次女に「鏡で傷を見た時、早乙女主水之介が頭に浮かんだわ」と言ったら知らなかった。

早乙女主水之介は昭和の東映時代劇映画『旗本退屈男』の主人公、市川右太衛門の当たり役だが知らないのも無理はない。それなら漫画『愛と誠』の大賀誠かな。と思ったがこれも古かった。僕の額もキズパワーパッドのおかげでキレイに回復し、タテジワの一つのようにになっている。この一連の出来事は今年の秋の篠原家のオデコの傷の三題嚙となった。

余談だが『愛と誠』のヒロインは早乙女愛なのだ。これは偶然の一致か。作者のながやす巧さんに会う機会があれば聞いてみようかなと思う。



### HITOKOMART P220~

## 山口 洋典

2000年4月から2006年3月まで、大学コンソーシアム京都の事務局で勤務し

ていました。立命館大学大学院理工学研究科の博士前期課程の大学院生だった1998年度と1999年度は中村正先生が総合コーディネーターを務めていたインターンシップ・プログラムのNPOコース(通称「NPOスクール」)でアシスタント(いわゆるTA)を務めていました。その後も「古巣」とはいくつかのご縁をいただいてきましたが、2025年度には、社会人向けの生涯学習事業「京(みやこ)カレッジ」の1講座として「防災と減災のためのリスクマネジメント」をコーディネートさせていただいています。こちら、中村正先生のお声かけにより、担当する機会をいただきました。

2025年10月に大阪キリスト教短期大学で開催された対人援助学会の第17回大会では、村本邦子先生の司会のもと、大学コンソーシアム京都の「NPOスクール」の頃にお出会った cocoroom の上田假奈代さんによる講演の聞き手を務めさせていただきました。

実は対人援助学会の年次大会に出席させていただくのは初めてだったのですが、アウェイな感覚はなく、なぜか懐かしい感覚を抱きました。

こうして多くのご縁に導かれていることを実感したこの秋、「防災と減災のためのリスクマネジメント」で先斗町のまち歩きをした11月29日、その日の夜に、先斗町歌舞練場の向かいの飲食店から火災が発生しました。火元となったお店は、かつて中村先生に保証人になっていただいて住まわせていただいた京町家の大家さんとよく通った界隈で、かつての縁と日常の時間が、静かに胸の中で重なった気がしました。

### PBLの風と土 P168~

## 鶴野 祐介

晩秋の週末、松江市に行ってきました。街のあちこちに「ばけばけ」のポスターが貼られて、<八雲とセツ>に沸き立っていました。小泉八雲記念館の近くになる八雲庵の「鴨なんぼ」が絶品でした。庭園ともども是非ご賞味ください。

### うたとかたりの対人援助学 P158~

## 鶴谷 主一

今回は運動会が雨天延期で、平日3日間に分けてやった話です。

それに絡んで年長の恥ずかしがり屋の女の子の話です。

彼女は小学校の広いグラウンドで大勢の観客に囲まれて行うことに気後れしていて、延期の一報を聞いたときに正直「やった！」と思っていたそうです。でもその気持ちを前面に出すと大人達に申し訳ないという気持ちがあって、「ざんねんだね・・・」と言ったそうです。でも、あきらかに表情はニヤニヤしてる。

年長ぐらいになると、本音と建前が見え隠れするという話。

原町幼稚園 <http://www.haramachi-ki.jp>

メール [office@haramachi-ki.jp](mailto:office@haramachi-ki.jp)

インスタ haramachi.k

ツイッター haramachikinder

### 幼稚園の現場から

P 64~

## 大谷 多加志

10月に開催された対人援助学会第17回大会に学会事務局スタッフとして参加しました。会場は大阪キリスト教短期大学、大会長はマガジン執筆者でもある西川友理さんで、お名前はいろいろなところで見かけしつつも、仕事を一緒にさせて頂くのは今回が初めてだったように思います。大会長としての働きぶりを間近に、学生たちに慕われている様子や面倒ごとにも骨惜しみせず臨む姿を拝見して、こういう風に仕事ができる方なのだと感じ入りました。

ほかにもマガジン執筆者の方も含め、色々な方と久しぶりに顔を合わせることが出来る貴重な機会となりました。マガジンを含めウェブの利便性や手軽さはとても大きいですが、リアルに対面の機会もやっぱり時々欲しいなと思います。来年の会場はたぶん京都、だそうです。

### 発達検査と対人援助学

P 101~

## 來須 真紀

ついこないだ62号を書いたと思ったのに、もう63号。毎日毎日とても忙しかったです。

仕事も推し活(わが子の習い事)も充実しているのですが、気が付けばクタクタです。今は2月に山口で行われる児童相談所とその近接領域における家族療法・家族援助の実際が楽しみです。私にとって全国の仲間との学びや楽しい話は次の力になっていきます。ご興味ある方はぜひHPとご覧ください。

### 教室の窓から

P273~

## 山岸 若菜

現在の職場を12月末で退職することになりました。

いくつか職場が変わると「波風立らず去る方法」もわかってるので今回はその経験を活かそうと思っていましたが、最近あまり他人の事情に深入りしない風潮のおかげもあり、辞めやすくなってきていると感じます。

でも一方で世間では退職代行サービスが流行っているとか。

他人の事情に深入りしない風潮は良いけれど、余計なお世話も時には大事と思っているのでこれからはその塩梅が難しくなりそうです。

### ある訪問看護師のあたまの中

P 298~

## 迫 共

残念ながら勤務先の大学から雇止め通知を受けまして、次年度の受け入れ校を探しています。

そのため今号は休載とさせて頂き、職探しと最終段階の学位取得に集中させて頂きます。今年度は対人援助学会大会のみならず国際学会での発表、学会シンポ(12月予定)とワークショップ、勤務校の助成を活用した学生との街歩きイベント等、様々な業績を作る事ができ、学会投稿論文の掲載通知も頂きました。…と、頑張っているのに、なかなか春からの仕事が決まりません。頑張りすぎ？

写真は10月に単著で出版した研究書です。ご興味おありの方は迫までお知らせください。学会員割引させて頂きます。

[https://bookway.jp/modules/zox/index.php?main\\_page=product\\_info&products\\_id=1664](https://bookway.jp/modules/zox/index.php?main_page=product_info&products_id=1664)

(迫メアド:

[sakotomoya@gmail.com](mailto:sakotomoya@gmail.com))

--



迫 共 SAKO Tomoya

[sakotomoya@gmail.com](mailto:sakotomoya@gmail.com)

070-5654-1719

休載